

ミズオオバコの生息環境保全に地域固有の水田農法

53. こもろミズオオバコビオトープ【長野県小諸市】

範 囲	圃	「ミズオオバコ田」と呼ばれる全長 500m程度の水田および水路	
所 在 地	地	長野県小諸市御影新田	
生 物 地 理 区 分		ミズナラ林	
環 境 要 素		草地、水田( )、小川・水路	
自然条件	地 形	この地域には「田切り地形」と呼ばれる特有の地形が広がる。千数百万年前の浅間山巨大噴火の際に形成された傾斜平地が、千曲川の支流に削り取られ、凹地の谷と凸地の台地となった。	
	植生・生物等	ヘイケボタル、サワガニ、ヤマアカガエル 湧水	
		 <p>撮影時期：2007年6月 ビオトープ入り口(田切の北東側)からの風景。手前(稲作水田)、奥(観察水田)さらに奥に田んぼと水路が続く。田植えと草刈りを行っている。</p>	
社会条件	人口(市町村)	44,012人(農家率15.4%、副業的兼業農家が多い) 小諸市のデータ(H22年)	
	土 地 利 用	市総面積の28.4%が田畑、36.4%が山林である。 小諸市のデータ(H22年) 浅間山の南麓(ろく)に広がり、市の中央部を清流千曲川が流れる高原の城下町。	
	歴 史 ・ 文 化	小諸市は、古くは小諸城の城下町、交通の要衝として宿場町として栄えた。そのため、小諸城(現懐古園)をはじめ大手門や三の門などの歴史文化遺産が数多く残されている。また、雄大な浅間連峰や情緒あふれる千曲川など、自然環境に恵まれ、多くの文化人をひきつけてきた。また小諸城は、自然が形成した深い谷を空堀として利用し、西側の千曲川の断崖も天然の防陣として利用しているため、「穴城」という別称がある。	
法 指 定、行 政 による 評 価 の 状 況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし	
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	該当なし	

取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		小諸ミズオオバコ保全会議	田んぼでの自然観察会や維持管理作業	
経緯	<p>ミズオオバコはトチカガミ科の沈水植物で長野県のレッドデータブック掲載種である。平成15年秋、このミズオオバコが小諸市御影新田の灌漑用調整池計画地付近の水田で発見された。工事によって失われるこのミズオオバコを保全するために発足したのが「小諸市ミズオオバコ保全連絡会議」である。ミズオオバコはその後、すぐそばの水田へ土ごと移植され、翌年には多くの花を咲かせた。</p> <p>この移植保存地および周辺にはミズオオバコの他にも貴重な生き物がたくさんいるため、平成18年からはこの貴重な自然を地域住民の手で守るために、「小諸ミズオオバコ保全会議」と改名し、水田の保全、観察会、シンポジウムなど、様々な活動を行っている。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	移植した田をピオトープや蛭の里として整備し、散策道路を拡幅して整備するなど、市民が集える場とすることを目指し地域の御影区などと共に活動してきた経緯があり、今後もその維持管理に努める。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	狭い、日当たりが悪い、等の理由で長らく耕作放棄地だった場所(火山噴出物の地層が河川によって削られて出来た、田切地形と呼ばれるこの地方特有の場所)を水田に戻し、無農薬、手作業で米作りを行っている。 無農薬の水田では、稲と共に、今となっては貴重な動植物(コオイムシ、ガムシ、ミズオオバコ、デンジソウ、サガトリゲモ)が生息・生育し、本来の水田の風景が感じられる。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会	水生昆虫観察会・ミズオオバコ等植物観察会、田切の野鳥観察会	
		環境教育・学習活動	小諸市内の小学校での課外授業「生き物観察」「たき火」	
		里地里山体験・環境保全		
		農林業体験活動	田植え、畦草刈り、田の草取り、稲刈り・はざかけ	
		エコツアー	その他	
野生動植物やその生息地の保全・管理	会報「御影新田ミズオオバコ通信」発行			
地域の良好な景観の保全・修復	休耕地一帯を、「里地の貴重な生き物と共存しながら米を作る水田」「泥んこになって遊べる水田」「貴重な生き物の避難場所としての水田」そして、「ため池」「湧水池」「水路」「湿地」といった多様な水辺環境からなるピオトープとして整備した。このピオトープは、水辺環境で生活する貴重な動植物を保全すると共に、米作り体験や自然観察会などに活用され、里地の豊かな恵みを体験できる場としても役立てられている。			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
該当なし				
連携・協働	小諸市：土地の提供 小諸ミズオオバコ保全会議(市民団体)：こもろミズオオバコピオトープを維持管理し、動植物の保全とピオトープの活用を考える			



撮影時期：2008年 7月  
 観察水田での水生昆虫観察会コオイムシ、ガムシの幼虫、ドジョウなどが観察された。水面にはデンジソウの展葉やセリが見られる。

撮影時期：

景観としての  
 利用・評価

不明

取組の特徴

貴重種の移植に成功、地方特有の地形を活かした多様な水辺環境をコンパクトに再現し取組を展開している。  
 長らく耕作放棄地だった場所(田切地形)がビオトープに生まれ変わり、無農薬、手作業で米作りを行うなど有効活用されている。多様な水辺環境からなるこのビオトープは、水辺環境で生活するミズオオバコなど今となっては貴重な動植物を保全すると共に、米作り体験や自然観察会などに活用され、里地の豊かな恵みを体験できる場としても役立てられている。

【参照資料】

小諸市HP (<http://www.city.komoro.nagano.jp/>)

御代田町HP (<http://www.town.miyota.nagano.jp/>)

(株)浅間自然環境事務所HP (<http://homepage3.nifty.com/asama-shizen/home.htm>)

小諸新聞・佐久市民新聞HP (2006年9月19日掲載記事)